

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）
2026年 第43週（10月19日～10月25日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

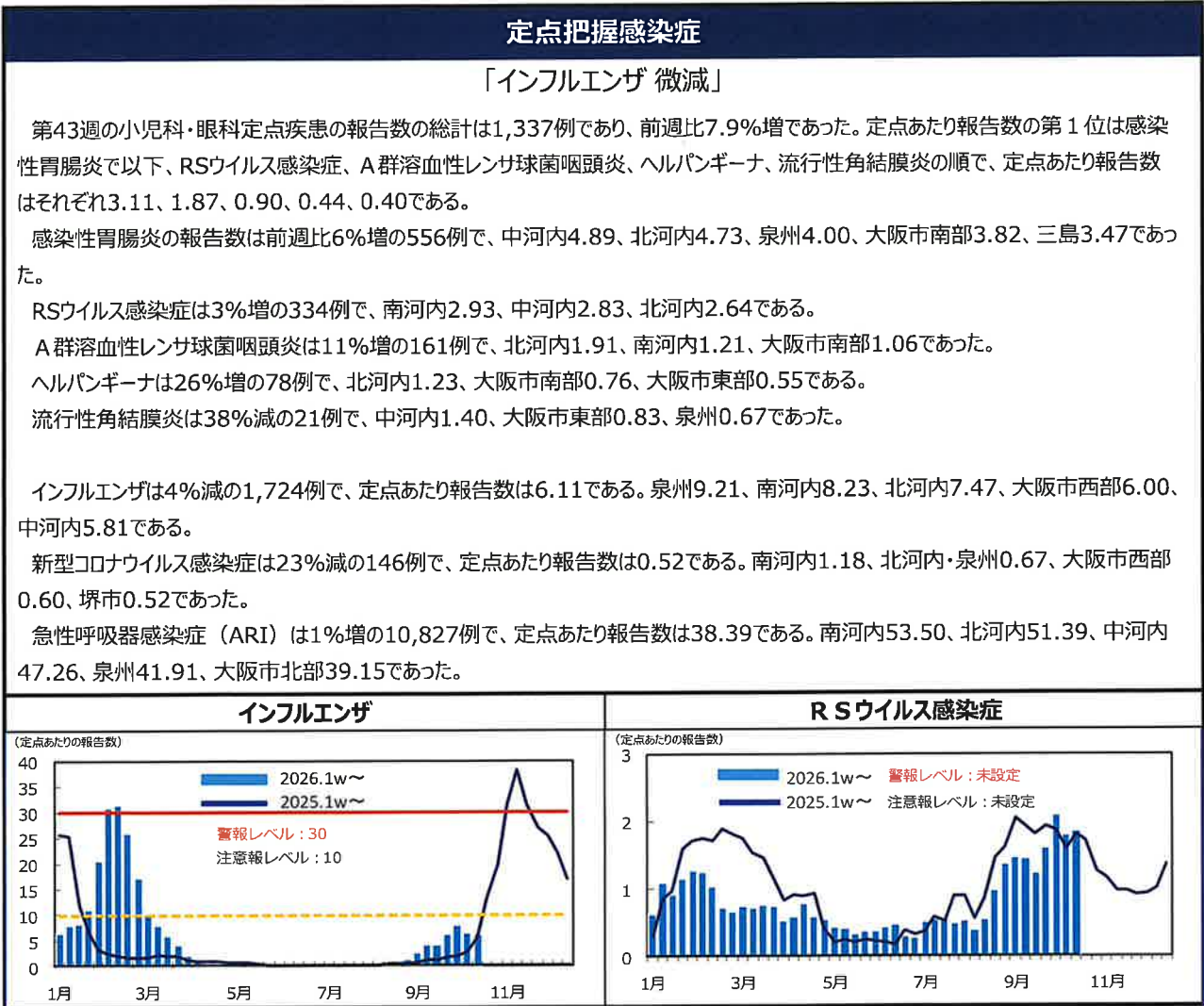


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第43週10月19日～10月25日）						
第43週 の順位	第42週 の順位	感染症	2026年 第43週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2025年 第43週の 定点あたり 報告数	2026年第43週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.11	6%増	3.10	1歳_17%
2	2	RSウイルス感染症	1.87	3%増	1.81	1歳_39%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.90	11%増	1.26	5歳_17%
4	5	ヘルパンギーナ	0.44	26%増	0.13	1歳_23%
5	4	流行性角結膜炎	0.40	38%減	1.23	20歳以上_86%
参考		インフルエンザ （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	6.11	4%減	5.68	20歳以上_31%
参考		新型コロナウイルス感染症 （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	0.52	23%減	1.29	1-4歳_19%
参考		急性呼吸器感染症（ARI） （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	38.39	1%増	41.09	1-4歳_36%

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）をご覧ください。

～先天性風しん症候群～ 大阪府では2019年以来の報告である

全数把握感染症

先天性風しん症候群

妊娠20週頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると、胎児に先天性心疾患、難聴、白内障等の先天異常を含む様々な症状を呈する先天性風しん症候群（CRS）の原因となる。風しんの予防には、2回の風しん含有ワクチン接種が有効である。定期接種として1歳と就学前の2回接種が行われている。CRSの予防には、特に、将来的に妊娠する可能性のある女性は、小児期を含めて2回のワクチン接種を妊娠前に完了させることが重要である。風しんワクチンは弱毒生ワクチンのため妊娠中の接種は避けることが望ましいことから、妊娠の可能性等を考慮し、事前に医療機関に確認の上接種することが重要である。また、妊婦と接する機会が多いその家族等においても、風しんの罹患歴や予防接種歴の確認を行い、明らかでない者は、風しんの抗体検査や予防接種を行うことが重要である。

風しん（厚生労働省）

風しん（国立健康危機管理研究機構）

年別累積報告数

大阪府は2026年第43週現在
全国は2026年第42週現在

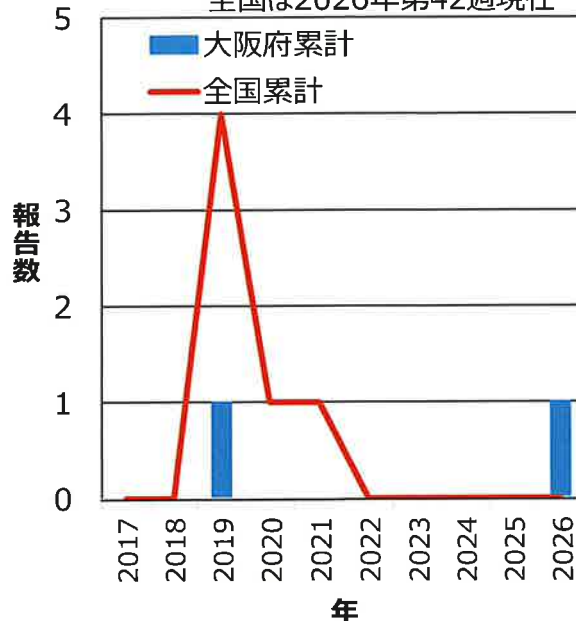


表2. 大阪府全数報告数（2026年 第43週10月19日～10月25日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。)

[illegible]

(2026年10月27日 集計分)